

ラジオの魅力 —学生パーソナリティーの現場から高齢者へ

1 目的・概要

コロナ禍に入って早2年。私たち大学生は、少しずつではありますが、コロナ禍の前の生活に戻りつつあります。しかし、施設に入居されているような高齢者の方々、病院で入院されている高齢者の方々などはどうでしょうか。恐らく、私たち大学生と比べてコロナウイルスによる影響を大きく受けているのではないのでしょうか。私たちは、コロナウイルスの影響で家族や人との関わりが減っている高齢者の方々のラジオで元気づけることを目的としてこのプロジェクトを始めました。



プロジェクトの概要としては、まず、高齢者施設にいらっしゃる高齢者の方々の実情を把握するために施設にビデオレターを送り、アンケートを取りました。また、高齢者の方々のリアルなニーズを知るために、京都タワーの前で路上調査を行い、KBS 京都さんと打ち合わせを重ねました。その後、4つの班（嚙下障害について、回想効果について、錦市場の魅力、宇治旅口ケ）に分かれて企画を構想し、それぞれ15分の番組を制作しました。最後に、このラジオで高齢者の方々の心を少しでも動かすことが出来たかということを検証するために収録した番組を施設に持っていき、アンケートを実施しました。

Annual Schedule

2021年	5月	歌・ダンス動画の制作完成
	6月	奈良テレビに歌・ダンス動画提出
	7月	メンバー内にて企画書の読み合い
	8月	KBS 京都見学
	9月	京都駅周辺にて路上アンケート実施
	10月	KBS 京都にてラジオ収録1回目、ラジオ収録2回目
	11月	武部宏の日曜トーク出演
	12月	後藤繁榮アナウンサーによる講義、高齢者施設への訪問・アンケート実施1回目、佐々木ディレクターによる講義、高齢者施設への訪問・アンケート実施2回目

2 成果達成度

そもそも、「元気になった」ということは何ををもって示すことができるのかということがとても難しい課題でした。その為、最終的にどのようにすればプロジェクトは達成されたといえるのかということをメンバーで長い期間にわたって話し合いました。結果、高齢者の方々が自分たちの放送に影響を受け、何か関心を持ったり、行動を起こそうと思ったりしてもらえたら、プロジェクトは成功したといえるのではないかという結論に達しました。

そこで、「頭を使って考えることができる」というラジオの強みを使った番組を作って、高齢者の方々の心を動かそうと考えました。ラジオは映像が無く、耳で聞いた情報を基に頭を使って想像することが必要です。この行為は、認知症予防につながることから、高齢者の方向けの番組にするには昔のことを思い出したり、クイズを出したりするなど頭を使って聞いてもらうことができるような番組にすることが必要なのではないかという仮説を立てました。これらの仮説の元、事前にアンケートを実施したり、KBS 京都の方々と何回も打ち合わせを重ねたりして、10月にラジオ収録を行いました。

その番組を高齢者施設にもっていき、実際に高齢者の方々に聞いていただきました。そこで得られた52件分のアンケートからは、番組を聞いてよかったと思われた方が全体の26.9%、それに対してネガティブな感情になった方が全体の36.5%いらっしゃいました。この結果から、私たちのラジオで多くの高齢者の方々の心を動かすことが出来たという結果を得られなかったことが分かります。しかし、番組の内容ごとに行った質問項目を見てみると、嚥下障害について話した回の評判が良いことが分かりました。



3 プロジェクトを通じて

「ラジオの魅力って何だろう」この問いかけから始まり、最終的には高齢者の方々にラジオを通して元気になってもらうというとても難しいプロジェクトでした。上に述べたように、着地点を見出すことはとても大変でした。また、コロナ禍ということもあり、高齢者施設訪問もままならず、施設にいらっしゃる高齢者の方々と交流する機会はとても少なかったです。そのため、リスナーとなる高齢者の方々のニーズが思うように把握できず、番組作りにはとても苦労しました。



しかし、私はこのプロジェクトを通して、自分の目で確かめることの大切さを学ぶことが出来ました。ラジオ番組で話す内容は、必ず取材が必要です。一見、当たり前のように思えるかもしれませんが、「今日は〇〇の桜が満開です。」という一言だけでも、実際に自分の足で確かめに行き、本当に満開なのかを確認することが大切です。また、自分の目で実際に観ることによって、桜の花びらの色や種類などを詳しく話せるので、リスナーの方は頭の中で満開の桜をイメージしやすくなります。私も、宇治をテーマにした番組を作る際には、実際に自分の足で宇治を訪れました。すると、ネットの情報だけではわからなかった宇治の抹茶の香りや雰囲気や自分の肌で味わったことによって、番組内で詳しく話すことが出来ました。このことは、今ネットでなんでも情報が入る時代だからこそ必要なことだとこのプロジェクトを通して理解することが出来ました。

最終的に、多くの高齢者の方々の心を動かすことが出来たとは言えませんでした、自分たちで企画し、実行していくことの楽しさややりがいを感じる事が出来ました。



編集後記

この活動成果報告書を書いていて、ここまでこのプロジェクトをやり遂げられたのは沢山の人の協力のおかげだと改めて思うことが出来ました。ラジオの企画に対して相談に乗ってくださり、丁寧に編集をして下さった KBS 京都の方々をはじめ、ラジオ番組のアンケートに快く協力して下さった高齢者施設の方々、的確なアドバイスを下さった TA の杉田さん、いつも見守って下さった奥野先生、そして、時には厳しく時には優しく指導して下さった大江先生。

ここに書ききれないほど多くの方に支えて頂き、このプロジェクトを終えることが出来ました。この場を借りて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

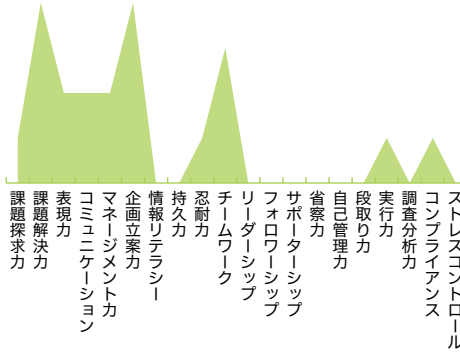
プロジェクトメンバー

加島 歩実(文2) 小川 いつき(社会3) 薄井 万葉(社会3) 堤 香乃(法3) 小楠 真紀人(経済3)
大瀨 大暉(経済3) 劉 あかり(経済3) 桑原 優斗(商2) 中橋 美樹(文化情報3) 橋本 侑実(スポーツ2)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

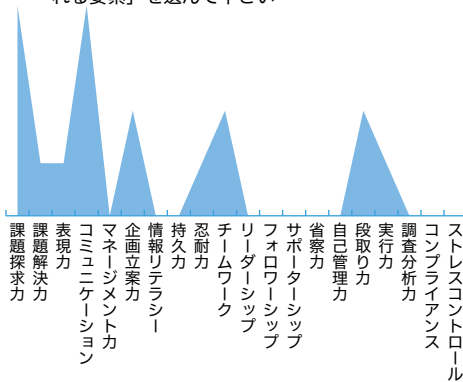
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

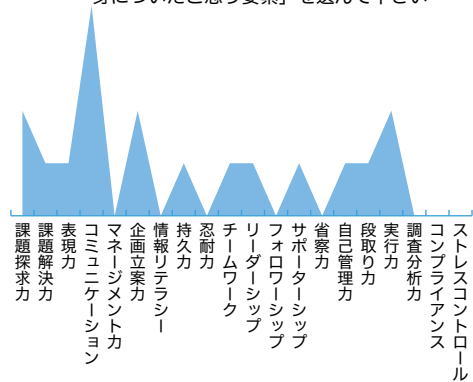


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

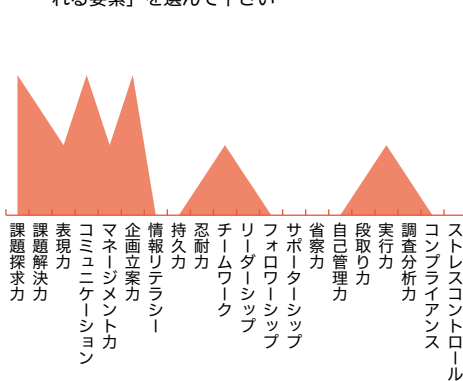


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

